

令和5年度第1回学校運営協議会（報告）

日 時 令和5年5月25日（木）
午後2時から4時まで
会 場 駿河総合高等学校会議室

1 開会

- (1) 校長あいさつ
 - ・新年度の学校の様子
 - ・コミュニティー・スクール（学校運営協議会）設置について
- (2) 委員の自己紹介
- (3) 運営委員の自己紹介（本校職員）
- (4) 会長及び副会長の選任

2 学校の概要説明

- (1) 学校の概要
 - ・創立11年目、前身は静岡市立商業高校、県立静岡南高校による統合再編で創立
 - ・総合学科について 県内には10校あるが、静岡市内には本校1校のみ
 - ・自分の進路希望に応じて学習を組み立てて授業を選択できる学校
 - ・「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」を通じて、3年間計画的に履修して探究的な学びを行える。
 - ・本校の敷地内に静岡北特別支援学校南の丘分校が併設されており、行事を共に行い、生徒会活動、各教科でも交流をしている。
- (2) 令和5年度学校経営計画について
 - ・スクール・ミッション及びスクール・ポリシー（グラデーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）について
 - ・スクールポリシー具現化の柱として生徒が最終的に身につけてほしい力を持つための具体的な方策として、アからケまでを定めた。
 - ・今年度は特にゴシック体で示したア（多様な学習ニーズに対応した資質・能力の向上と主体的に学ぶ態度の育成）、イ（品位ある生活態度の育成と自分の意思を表明できる環境づくり）、オ（自己肯定感を高め、仲間と共に安心して過ごすことのできる学習環境の整備）、カ（人権を尊重し、多様性を認め合う共生・共育による豊かな人間性の育成）、キ（地域連携を推進し、SDGsを意識した他者との協働による社会への寄与）を重点を置いた。
 - ・学習については、授業を中心とした中で生徒の多様な学習ニーズに対応していく。
 - ・品位ある生活態度の育成と自分の意思を表明できる環境づくり。
 - ・自己肯定感を高め、仲間とともに安心して過ごすことのできる学習環境の整備
 - ・人権を尊重し多様性を認め合う共生教育による豊かな人間性の育成を目指す
 - ・本年度県の人権教育研究指定を受け、学校全体で人権感覚を高め、互いの人権を尊重することを重視した教育活動、学習を進めていく計画である。
- (3) 令和5年度生徒募集状況と広報活動の充実について
 - ・入学生の定員割れについて
 - ・広報活動の充実について
- (4) 令和4年度末進路実績
 - ・国公立4年生大学への進学が10人、私立4年生大学への進学が94人、公立短期大学への進学が8人、私立短期大学への進学が11人、専門学校等への進学が103人、うち看護専門学校が9人、就職が40人、うち公務員5人、進学、就職準備等が6人であったことを報告。

(6) 部活動等の実績

- ・弓道部、水泳部が全国大会に、陸上競技部が東海大会、新人戦東海大会、ジュニアオリンピックのアンダー18で全国大会にも出場した。
- ・文化部も活躍しており、優秀な成績を収めている部活動もある。家庭科部は、様々なコンテストに出場して、最優秀賞をはじめ、いろいろな賞をいただいている。棋道部は県大会に出場した。文芸部は、令和5年度全国高総文祭に、当時1年生、現2年生の作品が出展する。
- ・令和5年度は高校総体で陸上競技部が東海大会に出場した。弓道部、男女バレーボール部、剣道部、卓球部が県大会に出場している。サッカー部は、中部地区の決勝トーナメントに出場した。文化部では、報道部、放送報道部であるが、NHKの放送コンテストのドキュメント部門の第2位ということで、県大会に出場する。

3 協議事項（進行は会長）

(1) 学校の現状について

- ・会長から、総合学科である駿河総合高校は、子どもたちが自分の系列の中から自分にあった科目や自分の進路に合わせて科目選択をしていく魅力的な学校であるが、定員割れをしてしまっていることについて、お考えいただきたいと提起。
- ・委員からは、広報ガイド（パンフレット）を地域にももう少し広めに配ってはどうか、部活動の特色化で発信できることもいくつかあるのではないかと、共生教育は駿河総合高校の特色であるとの意見が出た。
- ・委員からは、中学生に向けてのアピールについての意見があり、広報活動の課題解決についての考え方や広報の仕方というよりも、コンテンツ自体に課題を持ったかどうかとの意見が出た。
- ・委員からは、保護者向け、学校向けのパンフレット内容の印象を受ける。SNS等、子どもに向けた情報発信が重要であるとの意見が出た。

(2) 学校経営計画の承認について

- ・会長から、学校運営計画について質問をいただきながら承認についての協議をお願いしたいと提起。
- ・委員からは、スクール・ポリシー具現化の柱の中で、本年度「自分の意思を表明できる」という部分を新しく追加した背景について質問があり、校長から人権研究指定もあり人権というものを広く捉えるという意味で、自分の気持ちをきちんと自分の言葉で表明できる生徒を育てたいということであることを校長から説明した。
- ・委員から外国人生徒に対する支援方法の検討についての質問があり、現状について副校長が説明した。
- ・委員から、ヘルメットの努力義務化についての質問があり、現状について校長が説明した。
- ・委員から、静岡新聞にも本校の防災の記事が掲載されていたことに関連して、地域の防災に引き続き協力をお願いしたいとの意見があった。
- ・委員から「自己肯定感」とはどのようなことかとの質問があり、校長から人権教育に関連して充実させていきたい等と回答した。また、保護者の委員からは、学校生活において自己肯定感を、もっと自信を持っていいところを後押ししてもらえるとよいという意見をいただいた。
- ・委員から、教員が生徒の主体的な学びを支援していく体制について、意見をいただいた。また、学校評価の仕組みについて質問があり、校長から説明をした。
- ・会長から、令和5年度の駿河総合高等学校の学校経営計画書について承認いただけるか提案があり、承認された。

(4) 閉会

副校長より、第1回学校運営協議会を終了させていただくこと、本日いただいた御意見は今後の学校運営に活かしていくこと、次回日程について連絡し、閉会となった。